

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 動画「睡眠の歌」が好評でした

過日、地方創生を政策の柱の1つに掲げる国（総務省）から、基礎自治体（市町村）に対し、「全国移住ナビ」と称する、都会から地方へ移住したくなる動画を作り、これをそれぞれのホームページに載せて、全国に向け発信するよう求められました。動画は3分、制作費は500万円、費用は国が負担するとのことでした。

本市の広報担当も、早速、業者と一緒に知恵を絞り、「睡眠の歌」と題する動画を作りました。本市の「寝太郎伝説」をテーマに、睡眠にスポットを当て、ついウトウトしてしまうほどの心地よい空気が流れている本市をコミカルに表現したものです。市議会の本会議場で議長以下、みんながウトウトしている光景。市職員や市長もウトウト。様々な場面で、市民があまり見かけない状態でウトウトしているカットが続きます。しかし最後は、みんなの生き生きした活力あふれる笑顔でまとめられた、そんな動画です。



「みんな疲れているのね。」そんな感想を漏らす人もいます。「仕事中に寝ているシーンは労働災害の危険があり、よろしくない。」との指摘もありましたが、最近、国が全国の反響を調査したところ、本市の動画は全国で25位、県下で4位でした。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。本市への転入促進に役立ちそうです。

■ パラサイクリングの応援をよろしく

社会には様々な障がいを持つ人が少なくなく、ハンディを克服すべく頑張っていますが、自転車競技に挑戦し、それを生きがいにしていく選手もいます。そうした選手の競技会として、国際大会「パラサイクリングカップ」もありますし、国内規模の大会も多数恒例化しています。

去る10月30日から3日間、伊豆市で開催された「ジャパン・パラサイクリングカップ2015」に先立ち、次の公式練習地として山陽オートレース場が選ばれました。合宿練習の期間は11月21日(土)から同月23日(祝)まで。練習は午前は10時からと、午後は2時から2時間ずつ。山陽オートレース場ではレース開催の予定のない時期なので、合宿所はレース場に隣接するオートの選手の宿舎を使用してもらうことにしています。

障がいは、視覚障がい・四肢障がい(切断、機能障がい)・下半身不随等の4つのクラスに分けられ、ロード競技とトラック競技があります。参加予定選手は7名、これに関係スタッフも同行します。

そこで、みなさんにお願ひがあります。かねての地元障がい者に対する温かいご支援同様に、この選手たちにも山陽小野田市民挙げての激励、応援をお願いできればありがたいです。レース場の出入りは自由(無料)です。どうぞ声援を送ってやってください。